



21 期新人現地研修会～浜松まつり会館～

平成最後となる平成 31 年度新入会員 8 名の現地研修会を、好天の 4 月 1 日、研修部主催により浜松まつり会館にて実施しました。

まつり会館内での研修順路は、ハイビジョンルーム⇒凧糸製造室⇒大凧展示室⇒御殿屋台展示室の順で、館内での研修終了後は屋外に出て、津波襲来時の避難場所である「いのち山」の見学をしました。

ハイビジョンルームでは、約 8 分間の「浜松まつりダイジェスト映像」の観賞をし、凧糸製造室では、凧糸の原材料である麻を、直径 5mm、長さ 200m の一かせ（ひとかせ：糸の数量を数える時の単位）に製造する過程の説明がありました。原材料の麻は、最近では中国産の品質が良くなり国産よりも安価（一かせ 69,000 円）なため中国産の麻が使用されています。

この凧糸は、凧揚げ合戦の時に不公平が出ないように、みな同じ規格で作られているとのことでした。

凧糸を繋ぐ（つなぐ）には、2 人で 1 時間程かかり、町内ごとに技術が伝承されていて、その技法は“門外不出”とのことでした。凧糸の見分け方や、凧糸の繋ぎかたは合戦の勝敗を左右するため、長年経験したベテランの目利きが選り、ベテランの手によって繋がれた糸は丈夫で長持ちし、未熟な若手の凧糸の購入や、凧糸の繋ぎは長持ちしないそうです。

ベテランから若手へ“技術伝承”をして、後世に伝えていくことが大切であると感じました。



凧揚げに重要な「テギ」の使い方について、研修部の杉本忠久さんが「テギ」と凧糸を持参して模範演技（左写真）をしながら説明をしてくれました。「テギ」は“合戦に最も重要な道具”であり、凧糸を手繰る（たぐる）ための滑車（かつしゃ）で、昔は木製でしたが現在は金属で出来ています。

重要なことはテギを持っている人は、揚がっている凧を見てはダメということで、滑車と凧糸の角度が常に一致するように視線をテギに集中しなければならないということでした。

2014 年 12 月に、二宮和也（かずなり）さんが中田島砂丘で揚げた六帖凧の 500 分の 1 のレプリカ「ミニ和也凧」をまつり会館にファンが買い求めに来ていたが、人気グループ「嵐」が今年の 1 月 27 日に、“2020 年末でグループ活動休止発表”後、さらに買い求めに来るファンが増えて、現在は在庫が無く入荷まで 6 ヶ月待ちだそうです。

まつり会館屋内での研修会終了後、「いのち山」の見学途中に、持参したテレビ付ラジオで新元号が「令和（れいわ）」に決定されたことを管官房長官の発表で知りました。

この新元号決定に伴い、まつり会館では 5 月 3・4・5 日に「平成凧」と「令和凧」を凧揚げ体験コーナーで揚げるとの話を高橋館長からお聞きしました。

最後に、まつり会館南側の「風紋広場」にて参加者全員で写真を撮り 12:00 に終了して解散となりました。新入会員および研修部員の皆様お疲れ様でした。



まつり会館南側の風紋広場にて



ミニ「和也凧」

南ブロック ミニ研修会 ～まちなかウォーク～

3月27日9:00～12:00 好天。南ブロック18名、他ブロックから4名が参加し総勢22名による南ブロックミニ研修会が実施されました。講師は研修部の杉本忠久さん、鈴木延夫さんが当たりました。



浜松駅北口を出発するメンバー

研修コースは主に、復興記念館→五社神社・諏訪神社→発心山菩提寺→秋葉神社→普済寺→クリエート前(散会)、約5kmです。

旧医学校跡地に建てられた浜松復興記念館には、戦時中の物として戦艦武蔵の模型、日用品、軍用手票(代替通貨)、爆弾の破片等が展示されており、又戦後の復興を示すフラフープで遊ぶ子供達の像や、電化製品等が展示されています。

五社神社・諏訪神社の石垣、手水鉢、光海霊神碑(うなてりのみたまのひ)は市から最近、浜松地域遺産に認定されました。当社は1580年に家康によって、二代將軍秀忠の産土

神として建立されました。江戸時代には日光東照宮に次ぐ偉観だったそうです。残念ながら先の大戦で焼失してしまい、石造物に当時をしのぶばかりです。高力忠房寄贈の手水鉢は風格があり、石垣は当時長さ290mほどもあり里謡(りよう)に褒め称えられるほど立派だったそうです。それ以外にも、平成元年に造られた日本一の青銅製狛犬が参道の左右に立派な姿で設置されています。

発心山菩提寺は、浜松城四代城主松平忠頼が創建。江戸時代、檀家はなく「殿様寺」と呼ばれていたそうです。明治15年、17年に浜松監獄で獄死した2名が西遠医師会の有志によって解剖されています(両名の墓あり)。戦災時には近隣の人達が当寺の池に飛び込んで助かったそうです。

秋葉神社では鳥居の脇に「井伊の赤備え」発祥の地と案内板に記されています。拝殿横には十四代浜松城主松平資訓により1730年に奉納された風化した燈籠を見ることができます。

普済寺を見学し、帰路につきました。好天と良きメンバーに感謝。

古本俊夫(南ブロック)



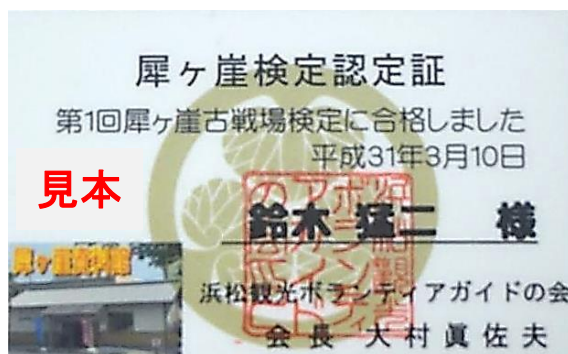
燈籠の説明を受けるメンバー

「第1回犀ヶ崖古戦場検定試験」結果

資料館部で初の試みとして、第1回犀ヶ崖古戦場検定試験(全部で10問)を、2018年11月3日から2019年2月28日の期間で募集をした結果、県内外の多くの皆さまから応募がありました。特に新聞に掲載された翌日以降は応募者が急に増え、マスコミの効果大でした。

応募総数は198名で、198名のうち139名が10点満点の合格者(70.2%)でした。

なお、10点満点合格者の都府県別の内訳は、静岡県113名、東京都3名、千葉県1名、神奈川県5名、埼玉県2名、群馬県1名、長野県1名、愛知県10名、石川県1名、大阪府2名でした。静岡県内では浜松市内が102名、浜松市以外が11名でした。合格者の皆様には写真のような認定証と、粗品としてボールペンを贈呈しました。



広報部 小池輝夫(東ブロック)

計 報

鈴木正良さん(北ブロック12期)が病気のため、3月15日に亡くなりました。(享年68歳) 奥様と二人三脚でボランティア活動にも取り組まれました。ご冥福をお祈りします。

私が所属している山岳会のメンバー3人と初めての海外遠征として、ニュージーランド（以下 NZ）のトレッキングに昨年12月30日から1月7日にかけて参加しましたのでその旅行記をお伝えします。

関西国際空港からNZ航空の直行便で約11時間のフライトを経て国際線玄関口のオークランドに到着。日本との時差は4時間。南半球の現地NZは真夏ですが、日本のような蒸し暑さは無く、とても清々しい。ところが入国審査の後の厳しい税関審査により日本から持ち込んだとっておきの果物（みかんなど）と真空パックの魚介類の食料品を没収されてしまったのは痛かったです。

この後、国内線でクライストチャーチへ移動。クライストチャーチはGarden city＝緑の街と言われるだけあって庭園が至る所にありますが、丁度、大みそかのこの日のホテルは市最大のハーグレイ公園近くにあり、公園内で行われた花火大会で新年を輝かしく迎えることが出来ました。

翌日の元旦は天気もよくて、クライストチャーチからレンタカーでアーサーズ・パス国立公園への300kmの行程を走行。NZの誇るサザンアルプスの素晴らしい、冠雪の峰々も遠望出来ました。上高地のようなアーサーズ・パス村ではデビルス・パンチボール滝へ往復2時間の行程を気持ちよくトレッキングしました。この後、車で更に北上して、遂にオーストラリアとNZの間的大海原のタスマン海に出て、ここから海岸沿いに南下し、ウェストランドタイ・ポウティニ国立公園内の2つの氷河、フランツ・ジョセフ氷河とフォックス氷河がある麓の町へ移動。



アーサーズ・パス国立公園とサザンアルプス遠望

今回のNZの山旅で最も楽しみにしていたのが片道約20km（約8時間の行程）の一泊二日のコーブランド登山でしたが、なんと当日は集中豪雨のような猛烈な大雨になってしまい、激しい濁流のコーブランド川の渡渉（川を渡ること）が出来ず、登山口からほぼ同時に出発した現地NZ人の6人ほどのパーティーもリスクを避けて引き返してきたほど。身長180～200cmぐらいの彼らの胸まで水位が上がっていたとのこと。これではさすがに渡渉は無理。安全を重視して目的地への登山を断念せざるを得ませんでした。登山では撤退の決定は重要です。



トゥファ山頂からカニーレ湖を望む

翌日はタスマン海に面した港町のホキティカ市郊外のトゥファ山に往復約7時間の日帰り登山をしました。この山の特徴は登山口から森林限界の中腹までは齒朶類がジャングルのように生い茂る亜熱帯雨林の樹林帯の急登が続くこと。NZにこんなジャングルのような地帯があるのかと不思議な感覚におそわれました。この日はあいにく、山頂はガスっていましたが、眼下にはカニーレ湖や広大な平原が望め、眺めていると“あれー、どこかで見たことのある眺望だなあ”そう！ここはあたかも「日光の男体山山頂から望む中禅寺湖、その向かいには半月山、平原は戦場ヶ原」と思えるくらいよく似た光景でした。ところでこの山はひょっとすると日本人初登頂だったかもしれません。

今回のNZ登山旅行のクライマックスはフォックス氷河のヘリハイクを体験したことです。ヘリハイクとは10分ほどヘリコプターで飛行後、標高3000mのタスマン山の氷河に着陸して、プロの山岳ガイドの案内でアイゼンを装着して3時間ほど氷河でのトレッキングをすること。フォックス氷河にはクレバスや落差100mほどの滝もあり、3時間があっという間に過ぎるくらい氷河のトレッキングを存分に楽しめました。



フォックス氷河のクレバス

今回は登山中心でしたので、いわゆる観光名所を巡る旅行ではありませんでしたが、帰国前日に再びクライストチャーチに戻ってからハーグレイ公園を散策。ここは日比谷公園の15倍の面積を誇る広大な公園。中央のエイボン川でカヤックを楽しむNZ人のスローライフぶりを見ていると心が和んできました。公園内の温室植物園も浜松フラワーパークを想起させて良かったです。

最後にこの美しい街、クライストチャーチで3月15日に凄惨な銃乱射事件が起こるとはとても信じられません。犠牲となられた大勢のNZの方々に心よりご冥福をお祈りしたいと思います。

谷 晃（西ブロック）

新入会員の入会動機

浜松に来てから30年ほどにすぎないが、何も知らないまま過ごして来ました。今年の目標として、浜松の事を知ることを目指しています。
石井知良（中ブロック）

「会 員 の 現 況」

2019年3月31日現在 （ ）内は休会者

	東ブロック	西ブロック	南ブロック	北ブロック	中ブロック	合 計
男 性	16 名	16 名	16 名	17 名	11 名	76 名
女 性	7 名	7 名	5 名	6 名(1 名)	11 名	36 名(1 名)
合 計	23 名	23 名	21 名	23 名(1 名)	22 名	112 名(1 名)

3月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3箇所の他に「浜松駅観光インフォメーションセンター」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

複数回来場のあった団体

＊ 阪急交通社	8回	307名
＊ JTB旅物語	5回	173名
＊ 東海7名城と名城本丸御殿	5回	276名
＊ クラブツーリズム	5回	124名
＊ 東海さくら名所めぐり	3回	127名
3日 日 山口警固まつり保存会		26名
近藤建築重機		26名
4日 月 NPO法人美里スポーツクラブ		49名
岐阜大学卓球部		21名
5日 火 気賀小学校		98名
8日 金 気田幼稚園		26名
10日 日 本沢合南子ども会		25名
12日 火 天竜中学校		117名
13日 水 山城連絡協議会		22名
15日 金 案内人と巡る名古屋城・浜松城・豊川稲荷		45名
静岡日本語教育センター		79名
あけぼの幼稚園		39名

15日 金 住吉第二保育園	42名
17日 日 赤佐12区こども会	24名
19日 火 徳川美術館と常滑さんぽ道	44名
いきいき倶楽部まいかた支部	76名
22日 金 浜松学芸中学校・高等学校	35名
25日 月 中友の会・三栗シニアクラブ	46名
27日 水 オイスカ開発教育専門学校	24名
29日 金 幸町お楽しみ会	20名
30日 土 MST	28名
31日 日 読売旅行奈良	32名
＊ 上記以外に19名以下の17団体	207名

《犀ヶ崖資料館》

3日 日 クラブツーリズム	15名
20日 水 クラブツーリズム	14名

《浜松まつり会館》

4日 月 城北宣広株式会社	32名
＊ 日曜対応(3、10、17、24、31日)	443名

は ま ま つ 案 内 人 会 報 205号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946

浜松市中区元城町 100-2 (浜松城内)

TEL & FAX 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ http://www.hama-svg.jp/



は ま ま つ 案 内 人

検索